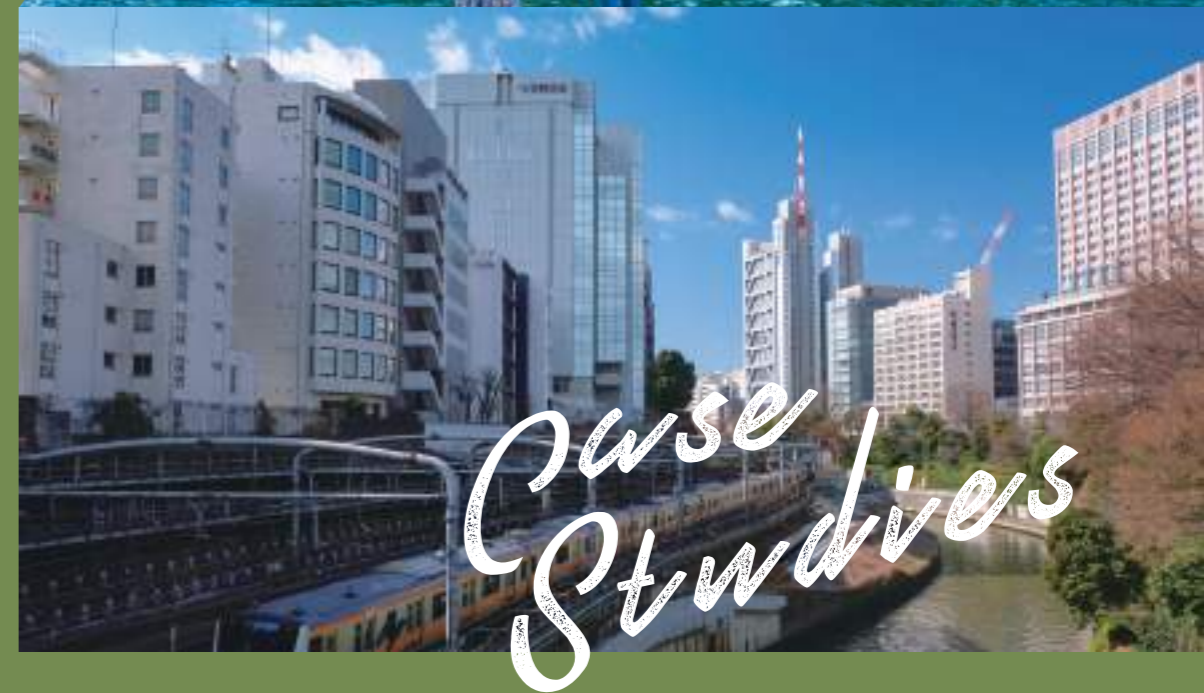


大学と 農泊地域の 連携事例集

大学と農泊地域の 連携事例集



LEARNING, CREATION,
AND RELATIONSHIP POPULATION

農山漁村との出会いがひらく探究の可能性

「**学び・創造・関係人口**」

はじめに

「職場や地域社会で多様な人々と仕事をしていくために必要な基礎的な力」として経済産業省が2006年に提唱(※1)した「社会人基礎力」には、「前に踏み出す力」、「考え抜く力」、「チームで働く力」の3つの能力が掲げられています。「人生100年時代」や「第四次産業革命」の下で、現代の社会に生きる人間としてこの社会人基礎力はその重要性をさらに増しています。

また、経団連の調査(※2)によると、企業が採用の観点から大卒者に特に期待する資質・能力・知識として、回答企業の約8割が「主体性」、「チームワーク・リーダーシップ・協調性」を挙げています。変化の激しい時代を迎え、「学び続ける力」と回答した企業も4割近くいます。特に期待する能力としては、「課題設定・解決能力」、「論理的思考力」、「創造力」が上位にきています。

一方で、大学には、産学連携に取り組みにあたって、地域を担う人材の育成や地域資源を活かした研究開発の推進、地域の様々な主体をつなぐハブ機能としての役割が求められています。

農林水産省が推進する「農泊」に取り組む地域は、人口減少が続く農山漁村地域の中で地域課題を乗り越えようと様々なチャレンジをしてきた地域が多く存在します。このような地域と大学・学生が接点を持つことは、学生にとっては「社会人基礎力」を底上げする機会となり、大学にとっては地域を担う人材の育成に寄与します。

本資料を参考に、1つでも多くの農泊地域と大学関係者のつながりが生まれ、双方にとってより良い成長のきっかけとなることを祈念します。

(※1) 経済産業省中小企業庁(平成30年3月)「我が国産業における人材力強化に向けた研究会」(人材力研究会)報告書

(※2) 一般社団法人 日本経済団体連合会(2022.1.18)「採用と大学改革への期待に関するアンケート結果」

本リーフレットの使い方

本リーフレットは大学関係者向けに、大学と農泊地域の連携のあり方、具体的な事例、大学との連携に意欲のある地域情報を掲載しています。具体的には以下の3章からなります。

1 大学と農泊地域との連携

大学の学生が農泊地域に訪問し活動する目的を「学習・研究のためのフィールドワーク」「インターシップ」の2つの観点から「農泊地域が最適な理由」と共に紹介しています。

2 大学と農泊地域の連携事例

大学との連携を行う農泊地域へのインタビューをもとに、現在提供する大学向けのプログラムやこれまでの活動プロセスを紹介しています。地域の実情や活動の背景を知ることができ、また他の農泊地域にとっても優良な事例として活動の参考としていただけます。

3 大学の受入を希望する農泊地域一覧

農山漁村地域での活動を検討する大学関係者が、実際に農泊地域にコンタクトをとれるよう、大学受入に積極的な農泊地域を基礎的な情報とともに紹介しています。是非コンタクトを取り、新たな活動のスタートしていただければ幸いです。

1 大学と農泊地域との連携

学部・セミ・サークル単位での研修・・・フィールドワーク

大学のゼミやサークルでの合宿、特に調査や研究のフィールドワークの場としての受け入れを行う農泊地域は全国に数多くあります。

その理由の1つは、農泊地域の多くが人口減少による集落の維持・地域の活性化を目指して活動を始めた地域が多いため、「地方創生」「まちづくり」「観光」などを研究テーマにする学生にとって研究対象として最適なフィールドだからです。

また、空き家の増加に伴い、建築系の学生がその利活用について検討するために、地域の歴史や地域住民の生活を踏まえて視察や利活用案を提案する学校もあります。

農泊地域における課題の多くは、地方における日本の課題の多くを共有しているといえます。

農泊地域の大半は、地域課題を乗り越えてきた、または乗り越えようとしている地域が多い

農泊地域は

研究対象として最適なフィールド

となる



農泊地域を研修フィールドとする学部の例

地域創生学部 / 地域政策学部 / 観光学部 / 社会学部(コミュニティ研究) / 農学部・森林科学部
水産学部 / 環境学部 / 生物資源学部 / 食農学部 / 文化人類学(文学部) / 教育学部(探究学習)
/ 工学部(インフラ・建築・地域エネルギー) / 建築学部(地域景観・古民家再生) / デザイン学部
(地域ブランディング) / 情報学部(地域DX)

2つ目は、日ごろから団体旅行や個人旅行、教育旅行や訪日外国人旅行など、さまざまな観光客の受け入れを行っており、合宿を行うにあたって必須となる宿泊や食事の提供がスムーズに可能となるからです。先生や幹事となる学生にとっては、訪問先に受け入れの基本機能が備わっていることで、合宿の本来の目的である「どのようなプログラムを組んで何を学ぶか」といったことに注力ができます。

農泊地域は・・・日ごろから観光客を受入＝施設・サービスが備わっている

農泊地域では

本来の目的＝研究に注力

できる



3つ目は、農泊地域では観光客に農林漁業体験を提供している地域が多く、ゼミ合宿においても農林漁業者との交流が可能となり、より深く地域の現状を知ることが可能となるからです。訪問する学生の問題意識や事前に設定した課題を、地域の代表者や住民へのインタビューを通じて検証することができます。これはなかなか個人ではできません。

農泊地域は・・・農林漁業者・地域住民と日ごろから連携

農泊地域では

交流・インタビューを通して、深い研究・実証が可能

となる



地方でのインターンシップ

農泊地域とインターンシッププログラムの協定や契約を結んでいる大学もあります。

2章でご紹介する認定NPO法人遠野山・里・暮らしネットワークのように、農泊地域では、来訪者のツアーコーディネーターやまち歩き、サイクリングガイド、同じ大学生の研修・体験プログラムのアテンド等を通じた、実践的なプログラムを学生が体験できます。

また、いわゆる「職業体験」だけではなく、観光や地域づくり等の現場での体験や共同実践を通して、地方の現状や地域課題の認識を深めることができるのが農泊地域でのプログラム体験の特徴といえます。

例えば、ツアーコーディネーターを通してツアーオペレーションや接客方法について学びつつ、農家の農作業の手伝いをしながら、地域住民の生活や歴史・文化に触れることができます。また、自らが課題設定したテーマに応じて、地域資源調査等の自主学習を行うなど、複合的な学習機会ともなりえます。

プログラムの最後に、関係者との意見交換や成果発表を行えば、プログラム体験中に学生が得た気づきや、漠然とした問題意識に対するより深い事後学習の機会となります。

地方(農泊地域)でのインターンシップの特徴

実践的な職業体験

宿泊施設
体験施設
接客

ツアーコー
ディネーター

農家で
田植え
収穫

地域活性化イ
ベント企画・
実施

特産品開発・
製造



地域課題に触れる

地域資源

地域活性化

地方の
産業

高齢化

人口減少

歴史・
文化



若い学生のアイデアと活動で島の課題に向き合う

西尾南部バイエリア協議会

フィールドワーク

地域の概要

愛知県西尾市一色町に位置し、特産品である地域ブランド「三河一色うなぎ」やカーネーションの生産、えびせんべいの製造、販売が盛んであり、農業、漁業を中心とした産業、観光及び文化に特色のある地域。その中でアートによる島おこしで注目されている離島の佐久島では、かつて多くの島民が栽培していたサツマイモを使用した芋焼酎を特産品として販売。また、観光だけでなく、人口減少が加速する島の課題解決をテーマにした大学のゼミや合宿の受入れを行い、関係人口の増加を目指している。



愛知県西尾市佐久島

大学の受入プログラム例

名古屋芸術大学「佐久島SDGsプロジェクト」

街から島へ流れ着く漂着ごみの問題をテーマにアート作品を制作し、SDGsイベントなどで展示して佐久島の現状について広くアピールする2023年からスタートしたプロジェクト

～～このプログラムの活動内容～～

- ① 島の現状と課題についてのオリエンテーション
- ② ごみ拾いを通じて、現状の把握。作品のテーマ決めや素材を収集
- ③ 島内のアート作品を鑑賞
- ④ 住民との交流
- ⑤ リサーチとフィードバック



「おひるねハウス/南川祐輝」

インタビュー

◆どのような大学・学生が来ているか？

現在は、親交のある大学の先生を経由し、学生が参加することが多く、参加する大学の所属学部は地域活性、観光、建築を学ぶ学生です。佐久島のアート作品は、建築士の作品もあり、いろいろな繋がりで参加していただいています。

◆学生受け入れ時の具体的な活動は？

島で人口減少によってどのようなことが起こっているのかをオリエンテーションし、直面する課題に向き合ってもらいます。主な活動内容は、漂着ごみを回収したり、増殖した竹林の整備を行いその先の活用方法や、観光のまちづくりや空き家の活用方法などを話し合います。オリエンテーションに時間が取れない場合は、webなどで事前に行います。

◆学生にとっての利点は？

課題解決で提案された案は、活用できることは積極的に取り入れるようにしています。提案いただいたイベントを開催して、学生達がスタッフとして運営に携わることも行っており、学生にとってかけがえのない経験になっていると思います。

◆受入れにあたって気をつけていることは？

住民との交流を大切にしています。学生と住民との関わりは新たな気づきとして課題解決には不可欠なものです。また、住民にとっても学生の意見が聞ける貴重な時間となっています。

島には住民で構成されている「島を美しくつくる会」という団体がありますので協力体制は整っています。

◆今後の意向・展望は？

この活動がきっかけで、これから先も関係人口として島を訪れてくれれば島に活気が生まれます。また、そこから移住定住に繋がっていくことを願っています。

少人数の体験型インターンシップで学生のビジョン形成に寄与

インターンシップ

認定NPO法人遠野山・里・暮らしネットワーク

地域の概要

岩手県遠野市(人口23,354人・2025年11月現在)は、典型的な寒冷地の中山間地域かつ盆地。遠野の観光は、『遠野物語』や昔話などを代表にした「遠野らしい暮らしぶり」や四季の自然景観を求めて訪れる人が多い。2003年度にNPO法人遠野山・里・暮らしネットワークが設立。2005年度には山里ネットが事務局となり教育旅行を対象に農村民泊を開始。「旅行者への質の高いコンテンツ提供」「なりわいとしてのグリーン・ツーリズム」はもちろんのこと、「遠野に住む人がまちに誇りをもつこと」を目的にしている。

岩手県遠野市



大学の受入プログラム例

農泊によるまちづくりを学ぶ(座学or意見交換)

農泊のコーディネート、観光まちづくりをしている事業者や農泊実践者から直接説明を受ける。地域課題への認識共有と、滞在行動を共にする仲間同士の場づくりを行う。



フィールドワーク(ガイド付き現場見学等)

ガイド同伴のサイクリングやまちあるきを通して、里山に囲まれた農村の雰囲気を感じながら、農業や観光など地域の産業を支える人々に対する理解を深める。



農家民泊での生活体験

「ありのままの暮らしを旅する」をテーマに、農家民泊のオーナーとの交流や各種体験を楽しむ機会とする。交流がなぜ宿泊客を惹きつけるのかを知る。長期滞在は一棟貸し型の農泊施設を利用。



現場体験

観光事業者や農作業に同行する。業務と一緒にしながら、地域の現状を知る。(実習先)観光協会、酒造会社、農家等



インタビュー

◆どのような大学・学生が来ているか？

大学によって変わるが、少人数の職場体験型インターンシップや数日のゼミ活動のフィールドワークなど山里ネットがコーディネートし農泊のフィールドを中心にした活動。東洋大学のインターンシップの際は、遠野のホップ収穫祭に地元企業の上閉伊酒造が出演しており、あえて中日に収穫祭を設定したり、伝統芸能を舞うお祭りやイベントの手伝いをしてもらうこともある。

◆学生受け入れ時の具体的な活動は？

インバウンドを含めた国内外の来訪者のツアーコーディネート、街歩きやサイクリングのガイド、地域住民と連携した地域づくり活動のサポート等をスタッフと一緒に現場で対応している。現場での体験実習・共同実践を通して、地方の現状や地域課題の認識を深め、解決方法の提案等をしてもらう。卒業後の進路に関わる明確なビジョンを掴むことにも寄与している。単なる活動に際し「現場での意味づけ」を意識的に行っていきます。学生が地域活動から気づくこと以上に、こちらからの意味づけがこういう受け入れのポイントである。

◆継続的にインターンシップの受け入れをするためには？

大学の教職員が最低でも1回は現場と一緒に回り、その職員が窓口になって現場の状況やプログラム内容を学生に伝えてもらい、価値観に合う学生をできるだけ面接してもらうようお願いしている。文字や机上だけで学生を受け入れるとお互いにギャップが大きくなる。できるだけコミュニケーションを増やし、ギャップを減らす努力をしている。教職員とコミュニケーションを多めにとることで期待値や目的の共有がなされ、継続的に共に受け入れを行っていく関係づくりが構築できる。その代わりに地域側は大学の趣旨にあった効果を一定以上出すことが必要である。つまりは教育効果と地域貢献のバランスをどう取っていくかがポイントである。 06

ゲストハウスの運営を通じて一人の人間として学生とつきあう

特定非営利活動法人くにたち農園の会



地域の概要

都心から車で20分、中央高速道路国立府中インター直下の谷保地域に広がる田んぼと青い空。農園「くにたちはたけんぼ」には毎年9000名を超える方々が訪れ、他にも古民家や認定こども園、ゲストハウスなど5つの拠点を運営し、0歳から年配者まで多彩な人々が地域で安心して過ごせる環境づくりに取り組んでいる。国立市谷保に残された田畑を最大限に生かし、多くの人々にとって心身に刻まれる農体験を創ることをミッションとしている。

東京都国立市



学生が運営するゲストハウス「ここたまや」

経緯・概要

大学1年生の女学生がゲストハウスをやりたいと農園に訪れたことがきっかけで築50年のアパート一棟をリノベーション。集客・予約・サービス対応・会計・施設管理すべてを学生団体「たまこまち」(現在8代目・卒業生含め120名超)が行う。



法人としてのスタンス

- 「やってみたい」は徹底サポート
- 施設も事業も丸っと任せて、金銭面も口を出さない
- 基本的には放置だがトラブル時はすぐに駆け付ける
- 人間関係はこまめにOBOGともしばしば飲み会



インタビュー

◆学生受け入れの具体的な活動は？

ゲストハウスここたまやを2019年1月に開業。空き家になっていた昭和の風呂無しアパート(2階建の上3部屋下3部屋)をくにたち農園の会が借り、学生たちが運営を担っている。2025年度で8代目となり、代替わりしてもサークルが運営し続けられていることが特色。一橋大学をはじめ複数の大学が所属しているサークルで、観光に限らず、まちづくり、経営などに関心を持っている学生が多い。

◆地域への効果は？

当時大学1年生の女学生がゲストハウスをやりたいと農園に訪れたことがきっかけ。多摩地域は大学が多く、海外からの来訪者が多いにも関わらず、彼らと地域の接点が少なく、関係も希薄。留学生も旅行者も学生もこの町にいたことを人生の中で何度も振り返るような機会提供をしていきたい。来る方々を右から左に流してなんとなくお金が残るというようなことではなくなんとか着地させたいという感覚があった。観光ではなく関係人口に近い形で、その地域に対する愛着や人との繋がりが生まれ、またこの地域に帰ってくるような関係性を地域と作っていきたくて模索している中で、現在のゲストハウスの形が続いていると感じている。

◆学生と付き合う上で重視していることは？

学生は若く、自分が本当にやりたいことを必ずしも分かっていないことも多いため、地域が並走する=共に生きていくという覚悟が必要。お互いに良いところだけをとっても、結局去ってってしまうだけだと思うので、腰を据えて取り組む必要があると感じている。学生が抱えているものを軽視せず、また、学生として見るのではなく、ひとりの人間としてどう付き合っていくのかを重視している。

学生との協働を通じて住民の意識・行動変容が生まれる

宇佐南院内地域プロジェクト推進協議会



地域の概要

大分県の北部に位置する宇佐市。全国4万社余りある八幡宮の総本宮「宇佐神宮」で知られ、県内外から年間約150万人が参拝に訪れている。

大分県宇佐市



「宇佐南院内地域プロジェクト」は、宇佐の中でも特に少子高齢化・過疎化が進む南院内地域の「あるがままの自然」を見直し、田舎ならではのおもてなしでまちを活性化させようという試み。

大学の受入プログラム例

<日本文理大学との共同実践例>

飲食メニュー開発班

ジビエや柚子などの地域資源を活かした餃子を開発。農泊で提供できる食事の開発。

ツーリズムプラン開発班

地域資源を活かした体験ツアーや電動キックボードを活用した地区内周遊プランの企画。SNSやウェブサイトなど、デジタル技術を活用した効果的な情報発信の方法を研究し実践。

お土産開発班

柚子胡椒手作りキットやワインバスボムなど、地域特産品を用いたお土産の企画。

農泊アメニティ開発班

地域還元型化粧品や化粧水作り体験など、農泊体験用アメニティの企画。

2年目

農泊拠点実現班

農泊施設の内装デザインや改修計画の立案、地域資源を活用した空間演出の検討、DIYによる拠点整備などを実施。

インタビュー

◆どのような大学・学生が来ているか？

日本文理大学工学部建築学科の学生。県の会議で当地域の活性化案に日本文理大学が手をあげていただいたのがきっかけで昨年度から受け入れを行っている。

◆学生受け入れ時の具体的な活動は？

15名の学生が、飲食メニュー、お土産、農泊アメニティ、ツーリズムプランの4班に分かれ開発するというもの。授業として正式に訪問するのは年間3回であるが、実際には各班ベースで別に3、4回は足を運んでいる。さらに夏休みに2週間泊まりこんだりするような学生も数名いる。班のリーダーとは随時連絡を取り、班ごとに現地調査、会議、開発等を実施している。地元の食育イベントに参加したり研修を受けたり、昨年度は最後に成果発表会という形で授業のまとめを行った。

◆地域への効果は？

1年目の前半は学生、地域のどちらもぎこちない状態であったが、後半から地域の方々も主体的に参加してもらえる状況になったので、地域を盛り上げることはできるようになったのではないかと感じている。中山間地域等直接支払制度や多面的機能支払交付金の組み合わせによって清掃や水路付近の清掃などの活動にも地域の皆が少しずつ動いてもらえるようになった。耕作放棄地を使用し、田んぼづくりのイベントを行うことで、地域の人々もまだ頑張ろうという意識の向上につながっている。

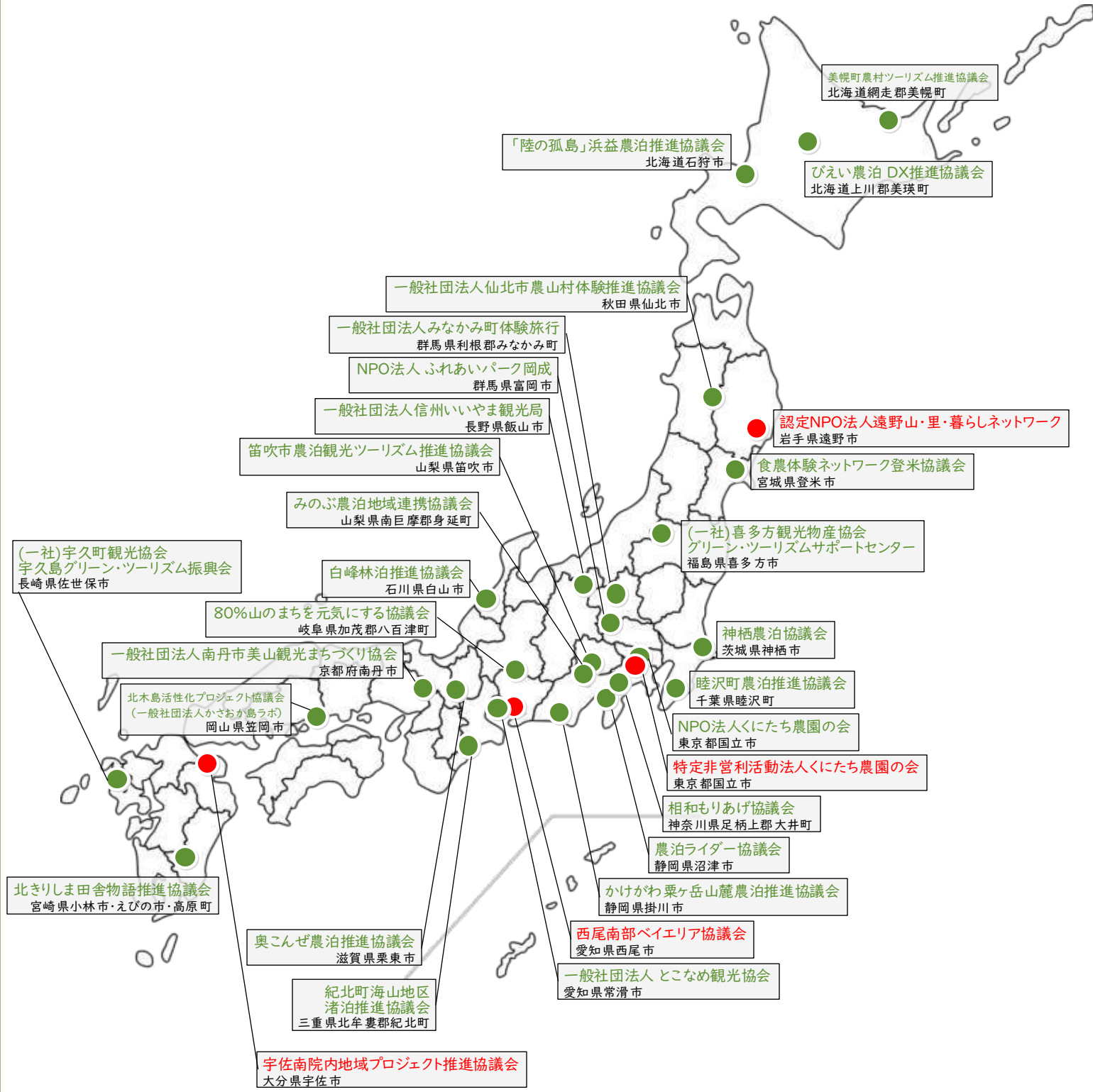
◆今後の展望は？

建築学科ということもあり、リノベーションや建築事務所と連携し五右衛門風呂を作るなどして、地域活性化につなげていきたい。今後は、地域側も待ってるだけでなく、あきらめずに頼み込む姿勢も必要なので、積極的に活動を行っていききたい。

3 大学の受入を希望する農泊地域一覧

教育機関の受入が可能な農泊地域

- 農泊地域における大学の活動事例
- 農泊地域



美幌町農村ツーリズム推進協議会 (美幌町役場みらい農業センター内)

～事業主体が「町役場」なので安価な料金設定が可能～

- インターンシップ
- 研修・フィールドワーク

地域概要

美幌町はオホーツクの空の玄関、女満別空港から車で15分の距離に位置し、阿寒、知床、網走へ繋がる国道4本が交差する町で様々な旅程を組み合わせることが可能な立地にあります。また、国内屈指の日照時間に恵まれた爽やかな気象条件の中で多彩な農産物が生産されており、スマート農業の普及も進んだ農業を基幹産業とする町で、その多彩で個性的な農業を体験していただくために「ファームステイ」、「ファームビジット」の受入を行っています。



「農家民泊を通じて”農業”を学び農家さんと交流する」

大学に提供可能な体験・プログラム(例)

- ・農家さん宅で行う「ファームステイ」、「ファームビジット」を通して基幹作物の馬鈴薯、小麦、甜菜、玉葱、人参、アスパラの栽培から生産までを学んでいただけます。
- ・美幌博物館と連携したSDGs体験プログラムとして「特定外来生物ウチダザリガニの駆除体験」を学芸員の指導のもと胴長を着て川に入り駆除体験を行い環境への影響について学んでいただけます。

・農家民泊を通じて”農業”を学び農家さんと交流する。
 ・地域基幹産業「てんさい」を生産から工場見学迄を学ぶ。
 ・博物館学芸員の指導の下、外来生物の影響を学ぶ。

基本情報・連絡先

一度に受入可能な人数	50名	宿泊施設	農家民泊先:20戸、町内宿泊施設:グリーンビレッジ、ホテルアルム等
所在地	北海道網走郡美幌町	ウェブサイト	https://www.town.bihoro.hokkaido.jp/
連絡先	Tel : 0152-75-2324 Mail : mirais@town.bihoro.hokkaido.jp		

びえい農泊 DX推進協議会

～ガストロノミーは地域の教科書。食べて未来を考える。～

- 研修・フィールドワーク

地域概要

美瑛町は世界観光機関(UNWTO)認定のベスト・ツーリズム・ビレッジである。生産者人口減少が進む中、北海道の最先端かつ大規模農業の現場で、持続可能な食と地域の未来を支える観光やフードロス削減などの新規事業を展開している。「食」「農」「観光」「SDGs」「幸せ」をテーマに、エピソードを交えたディスカッションや生産者・観光協会・町役場へのインタビューもアレンジ可能。美瑛町在住専門家が講師を行う。事前学習対応可。



「北海道美瑛町アニマルウェルフェア牧場見学」

大学に提供可能な体験・プログラム(例)

- ファームズ千代田や、丘の景色を作る畑作を中心に美瑛町全体でワークショップを提供。
- ・「食と命」体験で、大規模な酪農畜産業の持続可能性について考える。
- ・「地域食材ガストロノミーの推進」食・農・観光の専門家が循環型農業やアップサイクル等、現場の取り組みを紹介。
- ・「SDGsと暮らしを考える」十勝岳ジオパーク展示施設を活用し、火山・自然・防災・循環型農業を学ぶ

【集合】美瑛駅、又は旭川空港【体験】乳搾り、乳製品食品加工体験(バター、チーズ等)ワークショップ、じゃがいも掘り等の収穫体験【講和】「100のことワークショップ」地域課題、都市と農村の交流を100の事例を挙げながら紹介しディスカッション【夕食】プロシェフの美瑛食材コース料理、トマト農家の廃材アップサイクルカレー、有機JAS美瑛米の調理実習、交流等【宿泊】美瑛町内研修施設、千代田コテージ他

基本情報・連絡先

一度に受入可能な人数	牧場内コテージ定員4人×2棟。事前相談で4人～200人	宿泊施設	美瑛町内の研修施設、近隣のホテル、コテージ、ペンションを紹介
所在地	北海道上川郡美瑛町	ウェブサイト	https://note.com/biei farmstay
連絡先	Tel : 080-4116-7041 Mail : ishikawaf@food-creative.com		

「陸の孤島」浜益農泊推進協議会 (事務局:NPO法人ezorock)

～「陸の孤島」が育んだ暮らしから未来につながる～

地域概要

浜益は、札幌市中心部から車で約90分の豊かな山々と海に囲まれた石狩市最北の地域です。約40年前まで主な交通手段は船もしくは険しい山道であり、かつては「陸の孤島」とも呼ばれるほどでした。独自の地形と豊かな自然環境に育まれた地域循環型の暮らしが現在でも根付いています。人口約960人の過疎地域でありながら、関係人口や大学の実習などの受入を積極的に行い、年間を通して多くの若者たちが地域住民と共に地域づくりに取り組んでいます。



「陸の孤島」が育んできた暮らしや地域課題を実践型で学ぶ

大学に提供可能な体験・プログラム(例)

事例①(単発型)実践的なSDGsやネイチャーポジティブ、リアルな地方創生を学ぶフィールドワーク・研修を体験します。事例②(創出型)地域課題の解決を目指すプロジェクトを共に立ち上げ、実施の伴走を行います。事例③(インターン型)地域に滞在、通い産業や地域づくりの担い手としてインターンシップを行います。※期間、内容、送迎対応等臨機応変にご相談に応じます。社会教育士など専門資格を有するコーディネーターが活動、滞在をサポートします。

【集合】海が見える複合施設「ガル」またはJR札幌駅
【内容】①実地研修及びフィールドワーク②地域課題解決プロジェクトの立ち上げと実践③中・長期インターンシップの受入 インターンシップ内容:漁業・農業・果樹栽培など一次産業、行政と連携した地域づくりの現場など【食事】地元食材を使用した食事・食材提供を受けた自炊【宿泊】ゲストハウス「はまますベース」ほか

基本情報・連絡先

一度に受入可能な人数	20名程度 (中長期滞在の場合は要相談)	宿泊施設	ゲストハウス「はまますベース」ほか
所在地	北海道石狩市浜益区浜益	ウェブサイト	https://note.com/rikunokoto
連絡先	Tel : 011-562-0081 Mail : info@ezorock.org		

食農体験ネットワーク登米協議会(事務局:伊豆沼農産)

～地域資源を付加価値化し、新しい農村産業を創出する!～

地域概要

登米市は平坦肥沃な耕土が広がり、農畜産業が盛んな地域です。エリアの中でもラムサール条約登録湿地「伊豆沼・内沼」の自然はまさに圧巻。日本一の群生と言われるハス鑑賞、日本一の飛来数を体験するバードウォッチングは、他地域では体験できないコンテンツです。農村だからこそ感じられる、人・食・農・自然環境・風土に触れながら個人の価値観を変化させる「ポジティブアプローチ」を提供できるのが、当協議会の特徴です。

「活動は(有)伊豆沼農産からスタート。店名のくんべるはドイツ語で「仲間」という意味があります」

大学に提供可能な体験・プログラム(例)

地域全体をフィールドに①知識習得・思考する、②見る・触れる・感じる、③つくる・行動する、④関係性を構築する、⑤達成・成果を出す、といった5つの要素をパッケージ化。ご要望に応じたプランを提案します。

<こんな方におすすめ>

・日本の農業、環境保全に興味がある・卒業論文や卒業研究の一環として受講したい・団体研修で農業の付加価値化や地域創生を学びたい

- 研修・フィールドワーク
- インターンシップ



【集合】伊豆沼農産
【講話】農業の六次産業化、農村の産業化モデル講義 & ディスカッション
【体験】郷土料理体験、地域住民との交流
【昼食】農場レストラン
【体験】農家訪問、農業体験
【夕食】農園バーベキュー
【宿泊】近隣の宿泊施設(民泊、簡易宿所、ホテルなど)

基本情報・連絡先

一度に受入可能な人数	40名	宿泊施設	空き家をリフォームした簡易宿所、農家民泊、ホテルなど、ご希望に合わせた施設をご紹介します。
所在地	宮城県登米市迫町新田字前沼149-7	ウェブサイト	https://www.izunuma.co.jp/
連絡先	Tel : 0220-28-2986 Mail : travel@izunuma.co.jp		

一般社団法人仙北市農山村体験推進協議会

～農村の観光と地域資源活用を学ぶ体験型研修～

- 研修・フィールドワーク
- インターンシップ

地域概要

秋田県仙北市は、秋田県を代表する有名な観光スポットが多くあり、日本一の水深を誇る田沢湖をはじめ、乳頭温泉郷や、角館の武家屋敷通りなど、四季を通じて多くの観光客が訪れる。また、グリーン・ツーリズムの先進地とも呼ばれている地域でもあり、その歴史は昭和40年代までさかのぼる。地元農家での農山村体験、恵まれた自然を活用しての自然体験等、仙北市の特色を活かした体験を提供しており、国内外の観光客にも人気のコンテンツとなっている。



「仙北市グリーンツーリズムの受入」

大学に提供可能な体験・プログラム(例)

全国的にも先進的に活動してきたグリーン・ツーリズムの取り組みについて、歴史を紐解きながら、地域資源をどのように活用しているのかを学んでいただくとともに、外からの目線で地域の現状と課題を把握していただき、どのような解決・活用方法があるかを地域の方とともに考える。

- ①地域協議会による仙北市のこれまでの取り組みと現状課題についての説明
 - ②有名観光地視察(角館の武家屋敷通り・田沢湖・乳頭温泉郷など)
 - ③地域資源を活用した体験コンテンツ(蔵見学ツアー、伝統工芸品作り、アウトドアアクティビティなど)
 - ④農家民宿等での農山村体験・地域交流
- ※行程などご要望に応じて調整します。

基本情報・連絡先

一度に受入可能な人数	40名程度 (40名以上の場合は要相談)	宿泊施設	仙北市内農家民宿等の農泊施設に分宿
所在地	秋田県仙北市	ウェブサイト	https://semboku-gt.jp/
連絡先	Tel : 0187-43-2277 Mail : info@semboku-gt.jp		

(一社)喜多方観光物産協会 グリーン・ツーリズムサポートセンター

～農家との触れ合い、地域資源や農業の魅力を感じ～

地域概要

福島県会津地方の北西部に位置する喜多方市は、肥沃な会津盆地の土壌と豊富な水資源に恵まれ、農業が盛んな地域です。農家の高齢化、遊休農地の増加、農家所得の減少などの課題に対応するため、平成18年に「グリーン・ツーリズムのまち宣言」を行い、農業体験、郷土料理づくり、伝統文化体験をはじめ、実際の農家の暮らしを体験できる農泊体験など、多様な地域資源を活用する取組を進めており、地域産業の振興と地域の活性化に取り組んでいます。

- 研修・フィールドワーク



「農業体験」

大学に提供可能な体験・プログラム(例)

「感動の共有」

旬の食事、農家の営み、地域住民との交流を通じて、都市では得られない体験と感動を共有できます。

「魅力的な地域創造」

地域の人材や資源を活かした取り組みに触れ、持続可能で魅力ある地域づくりの現場を体験できます。

これらを題材にした課題解決学習も取り組めます。

「心の癒し」

豊かな自然とあたたかな人との触れ合いにより、心安らぐひと時を。

- 【宿泊】地元の農家さんの家に泊まり、家族の一員として過ごします。
- 【体験】農家の仕事や暮らしをそのまま体験できます。
 - ・農業体験(草取り、種まき、圃場整備、収穫、仕上げなど)
 - ・郷土料理づくり体験
 - ・工芸品づくり体験
 - ・除雪体験(12月下旬～3月上旬)
- 【講話】地域資源を生かした農業経営と6次産業化の取組

基本情報・連絡先

一度に受入可能な人数	20～30名	宿泊施設	市内の農家民宿に分泊
所在地	福島県喜多方市	ウェブサイト	http://www.kitakata-kanko.jp/category/index.php?lc=12
連絡先	Tel : 0241-24-4488 Mail : gt@kitakata-kanko.jp		

神栖農泊協議会

～住民とともに多様な課題に挑戦できる地域～

地域概要

茨城県神栖市は、農業・漁業・工業が発展する一方で、他地域と同様に医師不足などの課題を抱えています。こうした状況を受け、市民・企業・医療機関・行政が協働し、多様性や相互理解、持続可能性をテーマとした地域づくりを進めています。例えば、障害者が農業の現場で活躍する「農福連携」や、医学生が他者の視点を学ぶ「異業種実習」、地元の魅力や課題を見つける「地域診断」など独自の取り組みで、市の強みや魅力を引き出す努力が行われています。

大学に提供可能な体験・プログラム(例)

大学生向けのプログラムとして行ってきましたが、社員さんも大歓迎です。風力発電や農業の現場で軽作業を行い、業務理解と共に現場の声からリアルな課題感を把握します。また、まち歩きやインタビューを通じて地域の歴史や文化、現状の多角的な調査活動を行います。最後は自身をコンサルタントと見立てて、発見した強みや課題を分析し、独自の解決策を練り上げて提言・発表を行います。

- ・現場で作業をしながら現場の課題感の把握(1～2時間)
- ・テーマを決め、カメラを手にまち歩き(2～3時間)
- ・地元の方からの説明や意見交換会(約1時間)
- ・医療者・コミュニティー、大学生を交えた意見交換会(日程は要相談)
- ※進め方は担当者で相談して柔軟に決定します。



「地元の方を全国の医療や工学系大学生が囲んで夕食会」

基本情報・連絡先

一度に受入可能な人数	7名	宿泊施設	広々としたリビング。清潔感のある一軒家。床暖房完備。
所在地	茨城県神栖市若松中央4丁目37	ウェブサイト	http://kamisunouhaku.com
連絡先	Tel : 090-2659-8000 Mail : info@kamisunouhaku.com / h.iida@agri-newwinds.com		

NPO法人 ふれあいパーク岡成 (甦る高尾!創造協議会)

～「蚕の魅力」を探したり、地域民とみんなで一緒に身近な蚕資源を発見できるまち～

地域概要

群馬県の南西部に位置し人口 約5万人弱の田園豊かな都市です。面積は122.85km² (平成26年国土地理院)世界遺産富岡製糸場や群馬の名山妙義山のあるまちで高崎から車で30分、電車でも1時間弱です。東京から車で(高速自動車道)2時間程度です。群馬名物「おっきりこみ」富岡名物「ホルモン揚げ」が有名です。養蚕飼育体験を中心とした農泊協働活動を行っている



「ある日の養蚕体験」

大学に提供可能な体験・プログラム(例)

世界遺産のある町として養蚕に係わる飼育体験(養蚕年4回、天蚕2種、家蚕1種)、竹の子狩り体験、星空キラメキツーリズム、繭クラフト制作体験、稲作関係(田植え、稲刈り等)体験

- 養蚕飼育体験
- ・桑の木採取 … 1時間
- ・給桑(桑の葉を与える)… 1時間
- ・給桑後の蚕観察 … 1時間
- 午後
- ・眉クラフト体験 … 2時間程度

基本情報・連絡先

一度に受入可能な人数	1日体験 50名、農泊体験 10名	宿泊施設	2軒の農家に分宿
所在地	群馬県富岡市白岩547-1、富岡市桑原	ウェブサイト	https://www.ekiten.jp/shop_36465922/
連絡先	Tel : 080-7172-5461 Mail : fp-okanari@ozzio.jp		

一般社団法人みなかみ町体験旅行

～特定外来生物から価値を生む学び体験～

地域概要

群馬県みなかみ町は、利根川源流を抱く豊かな自然と、谷川岳の雄大な景観、湖や温泉、伝統文化が息づく地域で、ユネスコエコパークにも登録されています。多様な生態系が広がる源流域ならではの環境を活かし、ラフティングやスキーなど四季を通じて多彩な体験が可能です。みなかみ町では体験旅行を通じ、自然・文化・地域を教育のフィールドとして活用し、探究的な学びを深める場を提供しています。



「鮮やかな黄色の花をつけるオオハングウソウ。現在は全国的に問題となる外来種」

大学に提供可能な体験・プログラム(例)

かつて観賞用として持ち込まれ、現在は全国的に問題になっている特定外来生物「オオハングウソウ」の駆除作業と、植物を活かした蒸留体験を行います。地域で木材や花など蒸留する専門家と協働し、外来種の二次利用について適切な許可を得て人間の邪魔者になってしまった存在に新たな価値を吹き込む過程を体験し考える内容です。最後にオオハングウソウの蒸留水を持ち帰ることができます。

- ①谷川岳インフォメーションセンター施設見学・自然解説※インタープリターの案内でみなかみ町の自然・生態系・谷川岳周辺の環境について学ぶ(30分)
- ②特定外来生物「オオハングウソウ」駆除作業※オオハングウソウの解説後、班別で駆除作業を実施。特定外来生物の影響と生態系保全の重要性を学ぶ(120分)
- ③オオハングウソウの蒸留体験と香りの講話※課題を資源へ変える思考プロセスを体験(150分)

基本情報・連絡先

一度に受入可能な人数	40名	宿泊施設	民泊(地域分散型)やみなかみ町に点在するホテル・旅館
所在地	群馬県利根郡みなかみ町夜野1744-1	ウェブサイト	https://m-tr.jp/
連絡先	Tel : 0278-62-3450 Mail : info@m-tr.jp		

睦沢町農泊推進協議会

～米作り体験や未来年表を通して社会課題を考える～

地域概要

東京から約1時間半の房総の静かな農村地帯には、里山の風景がたくさん残っています。都市と農村の共生・交流を通して地域の振興・活性化ならびにまちづくりに寄与することを目的として、地域での滞在、体験、食による交流と学びをプロデュースします。



「岩井ファームキャンプサイト、ゲストハウス室内」

大学に提供可能な体験・プログラム(例)

SDGs、ネイチャーポジティブ、資源循環、地方創生などの学びに興味がある学生向けに、米作り体験などの里山体験や、当協議会の取り組み事例の紹介と未来年表を使った、ワークショップを提供。宿泊は、ゲストハウスおよびキャンプサイトでテント泊。夕食は、房総ジビエ(猪)や、地元食材パエリアなどをアウトドアでの調理体験。夜は焚き火を囲んで、キャンプファイヤー。

- 【体験】米作り体験(田植え、草取り、稲刈りなど)や野菜の収穫体験など
- 【ワークショップ】未来年表を使ったワークショップ
- 【夕食】房総ジビエ(猪)調理、焚き火で屋外調理
- 【宿泊】岩井ファームゲストハウスおよびキャンプサイトでのテント泊

基本情報・連絡先

一度に受入可能な人数	4～30名程度	宿泊施設	岩井ファームゲストハウス、キャンプサイトでのテント泊
所在地	千葉県睦沢町岩井深田522	ウェブサイト	https://6238.chiba.jp/kvoiku2025/
連絡先	Tel : 受付はメールにて Mail: https://6238.chiba.jp/contact-us/		

NPO法人くにたち農園の会

～学生×地域企業。既存の枠を超えた「生き方」に出会う旅～

地域概要

東京都国立市谷保。都市農業の風景が残るこの地で、一橋大生を中心とした学生団体「たまこまち」が築50年のアパートを改修し、ゲストハウス「ここたまや」を運営しています。若者が主体となり、NPOや地域住民と連携してコミュニティを再生させる取り組みは、地域活性化の生きたモデルケースです。同世代が運営する現場は、学生にとって刺激的な学びの場となります。

- 研修・フィールドワーク
- インターンシップ
- キャリア相談



「学生団体「たまこまち」と運営するゲストハウス「ここたまや」

大学に提供可能な体験・プログラム(例)

学生団体が経営するゲストハウスを拠点に、コミュニティビジネスの実践論や地域との関わり方を学びます。同世代の運営スタッフとの本音のディスカッションを通じ、組織運営やリーダーシップへの理解を深めます。また、都市農地での作業を通じ、都市問題や環境共生への視座を養うことができます。

- ◆【導入】学生団体「たまこまち」による地域ガイド「やばさんぽ」
- ◆【体験】農園での共同作業（チームビルディング・素の自分を出す）
- ◆【ワーク】キャリアワーク（地域企業・大人との本音トーク・座談会）
- ◆【夕食】地場野菜を囲み、ゲストも交えた交流会
- ◆【宿泊】学生運営のゲストハウスにて宿泊・振り返り

基本情報・連絡先

一度に受入可能な人数

宿泊：6～10名(貸切推奨)
※日帰りワークショップは20～30名程度まで可

宿泊施設

ゲストハウス「ここたまや」
(学生運営のリノベーション施設)

所在地

東京都国立市谷保

ウェブサイト

<https://kokotamaya.com/>

連絡先

Tel : 042-505-7200 Mail : Kunitachinouen@gmail.com

相和もりあげ協議会

(一般社団法人 神奈川大井の里体験観光協会)
～観光DMO×地域共創による持続可能なまちづくり～

地域概要

首都圏から約90分、神奈川県西部の足柄地域に位置する大井町は、面積の約6割を中山間地が占め、その多くが市街化調整区域である。現在、少子高齢化に伴う人口減少、農業の担い手不足、耕作放棄地の増加や鳥獣被害の拡大など、地域課題が山積する。こうした状況を踏まえ、「地域の困りごと解決につながる体験型の観光産業」の創出を目指し、住民参加型の観光まちづくりを推進。その一環として、観光やまちづくりを学ぶ学生の受入にも取り組んでいる。



「学生による「観光コンシェルジュ」としての指導サポートを体験」

- 研修・フィールドワーク
- インターンシップ
- ゼミや合宿、授業の受入

大学に提供可能な体験・プログラム(例)

東海大学観光学部の新入生を対象に、地域共創による着地型観光の体験・学習機会を提供するとともに、ゼミ学生に対しては、地域DMOとして当協会が取り組む体験型観光の着眼点を学び、体験し、企画する一連のワークショップ(オンライン+現地)を実施。学習機会と地域指導者との交流を創出するほか、体験民泊の企画・運営の実践もサポート。

- 地域の現状理解
 - ：高齢化に伴う竹林荒廃や獣害など、地域が抱える課題の把握(15分)
 - 観光まちづくりの取組紹介
 - ：体験型観光を通じた地域づくりの視点や着眼点の理解(30分)
 - 地域指導者主導によるプログラム体験
 - ：伐採した竹を有効活用した竹炭石けんづくりなどの体験(90分)
 - 体験コンテンツの企画
 - ：伐採した竹を活用したコンテンツ企画(90分)

基本情報・連絡先

一度に受入可能な人数

数名から受入可 ※内容により応相談

宿泊施設

域内の民泊・ホテル・民宿・青少年教育施設など

所在地

神奈川県足柄上郡大井町柳248

ウェブサイト

<https://taikenkankou.com>

連絡先

Tel : 0465-43-6309 Mail : office@taikenkankou.com

白峰林泊推進協議会

～環境×社会×経済のバランスを住民と共に考える～

地域概要

石川県の最南端、日本三山のひとつ白山の登山口にある人口約620人のむら。日本有数の豪雪地帯で、自然に寄り添い敬意を払いながらも、巧みに使いこなして生きる奥山人の暮らしが受け継がれている。ユネスコ世界ジオパークとユネスコエコパーク(生物圏保存地域)に、日本で唯一重複認定されている。これまで10年間にわたり金沢大学等と連携し、国内外の学生を対象に当地をフィールドに、持続可能な発展をテーマとした研修を数多く開催している。



「豪雪の村の日常を体感し語り合う」

大学に提供可能な体験・プログラム(例)

白山の自然に囲まれ、過去から現在、そして未来を見つめる時間を提供します。自然豊かな山中に住み、焼畑や炭焼きなどを生業とした「奥山人の暮らし」を体験しながら、持続可能な社会を考えるプログラムです。参加者に合わせて様々なテーマのもと、自然と人間との関わりなどについて考えます。過去を知ることから現在の生活を振り返り、そして将来を考える機会を提供します。

自然の中で暮らす「出作り文化」体験。オバル染め、伝統食作り、豪雪の村かんじきハイク等…2時間
持続可能な山村生活について地元住民とディスカッション…1時間
テーマ決め&フィールドワーク、自由時間…3時間
発表会 in 古民家…1時間

基本情報・連絡先

一度に受入可能な人数

10名程度

宿泊施設

古民家一棟貸し宿や温泉旅館など人数に合わせてご用意します

所在地

石川県白山市白峰口131

ウェブサイト

<https://www.rinpaku-shiramine.com>

連絡先

Tel : 090-4686-9238 Mail : rinpaku.shiramine@gmail.com

笛吹市農泊観光ツーリズム推進協議会

～世界農業遺産の果樹援農体験、課題解決、農の魅力体験～

地域概要

世界農業遺産に認定地域の果樹地帯である。桃、葡萄の生産量日本一、又ワイン産業や果物の加工業が盛んな地域であり、東京からも1時間40分と公共機関でも来れる距離感の立地である。富士山からも40分と観光資源も豊富で石和温泉もある地域であり、大きい宿泊施設も充実している。近年農業人口減や耕作放棄地による地域課題もあり遺産認定は受けたものの今後どう維持していくか重要な課題を抱えている地域である。



「食と農の探求学習プログラム」

- 研修・フィールドワーク

大学に提供可能な体験・プログラム(例)

体験の時期や目的によりアレンジ可能。世界農業遺産認定地域だが高齢化、人手不足、山間地域ほど特別な土壤に恵まれた作物が育つが、生産効率が悪くマンパワー不足の課題があり、耕作放棄地へと今後なってしまう課題がある。援農体験から地域理解と課題解決、作物を作る喜びから農業への関心を高めて教育の中で地域を支える関係作りにつながる体験、食体験を組み合わせたプランを提供。

季節毎の援農体験プラス関わった果物や加工品が学校に届くプログラム。季節と目的に合わせて組み合わせるプラン。例 桃の袋掛け作業と桃が学校に届く。葡萄の傘かけ作業と葡萄が学校に届く。桃や葡萄の収穫作業と加工品(ジュースやワイン)が学校に届く。地域の農家の課題を理解し援農と地域を支える交流や学び体験

基本情報・連絡先

一度に受入可能な人数

30名

宿泊施設

農泊体験宿 桃源の家、庭園の家、石和温泉宿

所在地

山梨県笛吹市境川町三柵140、
笛吹市一宮町塩田379-1、石和温泉宿

ウェブサイト

<https://www.fuefuki-nouhaku.jp>

連絡先

Tel : 080-8257-7579 Mail : cook.marusa.marche@gmail.com

みのぶ農泊地域連携協議会

～一年間の栽培から味噌づくりまで一貫して体験～

■ 研修・フィールドワーク



「あけぼの大豆収穫体験の様子」

地域概要

山梨県南部、富士川と山々に囲まれた身延町は、古くから豆類栽培が盛んです。特に「あけぼの大豆」は、標高300～700mの曙地区を中心とする町内で栽培される在来種。昼夜の寒暖差と霧が多い特有の気候・土壌が、通常より大粒で甘みが強い大豆を生み出します。限られた地域と手作業による生産のため希少性が高く、「幻の大豆」と呼ばれています。町では、この特産品を活かした地域活性化に取り組んでいます。

大学に提供可能な体験・プログラム(例)

一年を通じて「幻の大豆」を深く学ぶ機会を提供します。参加者は6月初旬の播種から、厳しい夏場の草取り・灌水を経験。収穫期には10月の枝豆収穫と12月の大豆収穫を行います。さらに、収穫した大豆を使い、3月には伝統的な味噌づくりまでを実践。栽培から加工まで一貫して地域特産品の価値創造を学びます。

- ・播種(種まき): 6月中旬～6月下旬
- ・圃場の管理: 灌水(水やり)や草取り 7月～9月
- ・枝豆収穫: 10月中旬～下旬(幻の枝豆を試食)
- ・大豆収穫: 12月初旬～12月中旬
- ・みそ作り: 3月初旬

基本情報・連絡先

一度に受入可能な人数 10名

宿泊施設 宿坊 覚林坊、迎賓館えびす屋

所在地 山梨県南巨摩郡身延町身延3510

ウェブサイト <https://minobunavi.jp/>

連絡先 Tel: 0556-62-0014 Mail: minobu@kakurinshoja.com

一般社団法人信州いいやま観光局 (飯山市農福観連携協議会)

～農福連携事業所や観光の場での学びと発見！～

■ 研修・フィールドワーク



「西武文理大学の学生による道の駅花の駅千曲川での販売体験」

地域概要

飯山市では、農福連携事業所や行政と協力し、大学生の受け入れを積極的に実施しています。西武文理大学(埼玉県狭山市)には、観光局職員による事前授業に加え、地域の様々な事業施設訪問や農福連携事業所での作業体験・交流、道の駅での販売実習など、多様で実践的な学びの機会を提供しています。事前学習から現地実習まで一貫したプログラムにより、地方での誘客や販売促進、農福連携の実務を体系的に習得できます。

大学に提供可能な体験・プログラム(例)

専攻内容に沿った学習の場、地域の人との交流の場を提供します。西武文理大学のフィールドワークの授業において、スタディツアーを実施。事前はどういったことを学び、体験するかを協議し、市内の農福連携事業者での体験、交流を中心に、地元企業での見学、研修、実践販売等を行いました。

- 飯山市の観光、農福連携事業についての授業…1時間～2時間
- ↓
- 農福連携事業者での作業、交流体験…講習含め3時間～6時間
- 飯山市での地元の商品の販売活動…半日～1日

基本情報・連絡先

一度に受入可能な人数 20～30名

宿泊施設 戸狩温泉地域の農家民宿、斑尾高原エリアのホテル、ペンション、なべくら高原・森の家コテージ等

所在地 長野県飯山市内

ウェブサイト <https://www.iivama-ouendan.net/>

連絡先 Tel: 0269-62-3133 Mail: info@iivama-ouendan.net

80%山のまちを元気にする協議会

～歴史の発展・変化から知る、森と水と暮らしの循環体験～

■ 研修・フィールドワーク



「八百津町 蔵元やまだ 酒蔵見学」

地域概要

八百津町は、豊かな自然と山里文化、舟運で栄えた町である歴史的背景が深く根付いた地域である。森や川、山に囲まれ、八百津祭り、久田見祭りなど大きな祭りが2つあるなど伝統行事や歴史施設も多く、観光資源としての魅力が高い。一方で人口減少・過疎化への対応を明示した計画を持ち、移住・地域づくりにも積極的である。自然資源を活かした持続可能な暮らしや、森林との関わりを重視する生活を望む人にとって、非常に可能性のある町と言える。

大学に提供可能な体験・プログラム(例)

歴史と文化から見えてくる森と暮らしのつながり。未来に向けてさらによりよいつながりにするためには？ スマホでWEBARを活用した、八百津の歴史・文化・環境を知るまち歩きと、地場産業を知る体験(酒造・醸造・農業・林業)、1泊2日で「水と緑のまち八百津」の食の体験も交えながら、八百津の「森のある暮らし」を体験。

八百津の食材を使用した夕食(季節ごとにテーマを変えて醸造・発酵・保存食/ジビエ/ほう葉寿司などの郷土料理)を学びながら楽しんでいただき、宿泊

↓
季節ごとにテーマを変えた体験
酒造・醸造・農業・林業 地場産業・歴史文化に関する体験
↓
WEBARを活用した「舟運で栄えた八百津」を知るまち歩き

基本情報・連絡先

一度に受入可能な人数 2人～40人
(相部屋が可能であれば40名までOK)

宿泊施設 泊り家あかね(最大収容人数 40人)
まつや旅館((最大収容人数 8名)

所在地 岐阜県加茂郡八百津町八百津3607-8

ウェブサイト <https://nohaku802.vaotsu-mall.com/>

連絡先 Tel: 0574-40-5980 Mail: nohaku802@vaotsu-mall.com

かけがわ栗ヶ岳山麓農泊推進協議会

～茶農家作業の体験を通じSDGsを学び考える～

■ 研修・フィールドワーク



「重い茶草の入った茶袋を背負い、茶畑へ茶草を敷く様子」

地域概要

当地は茶どころ静岡県内でも屈指の茶産地で、主に「深蒸し茶」の生産が盛んに行われている。またその栽培方法は自然環境を活用した「循環型農業」で、人と自然の共生を約200年継承してきたことが評価され「世界農業遺産」に認定されている。

大学に提供可能な体験・プログラム(例)

SDGsを実践する「茶草場農法」を行うお茶農家の作業をお手伝いし、茶農家との交流を楽しむ。また作業を通じてSDGsについて学び、茶業をはじめ日本の農業の未来について考える。そして自分たちが出来ることが何かを考える。

「茶草場農法」は冬(11月～2月)の茶農家の主な仕事です。寒風の中で行うこの作業は茶農家にとって最も重労働で、高齢者の多い茶農家にとっては負荷が大きい為、茶農家の指示のもと、その作業を手伝いするとともに、作業を体感することで日本の農業の未来を考えるプログラム
体験(作業)内容の一例
①茶草運び ②茶草カット ③茶草敷き ④茶園整備
休憩のお茶タイムや昼食は茶農家との交流を!

基本情報・連絡先

一度に受入可能な人数 100名

宿泊施設 少人数の場合は地域内の農家民宿で、グループ団体の場合は市内温泉旅館やホテルを手配します。

所在地 静岡県掛川市大野1708

ウェブサイト <https://chanosato.net/>

連絡先 Tel: 0537-54-1464 Mail: info@tabinoya-oldjapanese.com

農泊ライダー協議会(にしうらさざなみファーム)

～環境再生、地方創生に興味があり、自分も何かできることを考えたい～

- 研修・フィールドワーク
- インターンシップ
- 地方と都市の共創に興味があり、自分も何かできることを考えたい。



「野菜収穫」

地域概要

沼津市西浦木負は駿河湾と富士山を望む沿岸集落で、みかん栽培を中心とした農林水産業が営まれてきた。一方、人口減少と高齢化により後継者不足が深刻化し、耕作放棄地の増加が課題となっている。豊かな自然景観と農業資源を活かし、観光や体験型滞在と結びつけた地域再生が求められている。

大学に提供可能な体験・プログラム(例)

無農薬みかん・果樹栽培体験、収穫・商品化ワークショップ、農泊・キャンプを通じたチームビルディング、地方創生・一次産業の実践型フィールドワークを提供。企業研修や大学のPBL・ゼミ合宿として、地域課題解決と実体験を融合したプログラムが可能。

◆【集合】にしうらさざなみファーム ◆【体験】収穫体験 ◆【講和】代表による地域での取り組みについての講和&ディスカッション ◆【夕食】当園で採った野菜たっぷりのカレーをスタッフも一緒に皆で囲みます。* ◆【宿泊】当園でのキャンプ宿泊

基本情報・連絡先

一度に受入可能な人数	45名(大人のみ)～75名(大人+子供)	宿泊施設	それぞれ持参のテントにて宿泊
所在地	静岡県沼津市西浦木負420	ウェブサイト	Instagram / niko.robin2(にしうらさざなみファーム) / @MtFuji792289399 (にしうらさざなみファーム)
連絡先	Tel: 協議会事務局: タビーナ静岡 055-934-7117 Mail: nishiura.sazanamifarme@gmail.com		

一般社団法人とこなめ観光協会

～農家体験とまち歩きで学ぶ常滑～

- 研修・フィールドワーク
- 地域住民との交流
- どのようなプログラムも一度ご相談ください



「常滑の町を見守る巨大招き猫、とこにゃん」

地域概要

中部国際空港セントレアやAichi Sky Expo(愛知県国際展示場)を有する中部の玄関口・常滑市。やきもの散歩道では常滑焼の歴史に触れ、陶芸体験を通じてものづくりの文化を体感できます。伊勢湾に面した温暖な気候のもと自然の恵みに育まれた食にも出会えるまちです。

大学に提供可能な体験・プログラム(例)

養鶏場見学から、産みたて卵でつくる絶品プリン作り体験に絶品オムライスのランチも堪能できます。また、やきもの散歩道のまち歩きでは、歴史的建造物や窯跡を巡り、焼き物の歴史や文化を学習できます。陶芸家によるガイドも手配可能です。見て・触れて・味わうことで学びと楽しさが結びつくプログラムです。

【体験】たまご農家でプリン作りとオムライスのランチ…3時間
【まち歩き・ショッピング】やきもの散歩道まち歩き…2時間
【夕食】知多半島の旬な野菜や知多牛を農家レストランで味わう
【宿泊】民泊やゲストハウス、ホテルでの宿泊

基本情報・連絡先

一度に受入可能な人数	20名	宿泊施設	市内の民泊やゲストハウスに分宿もしくは市内ホテル(東横INN中部国際空港など)
所在地	愛知県常滑市内	ウェブサイト	https://www.tokoname-kankou.net/stay/
連絡先	Tel: 0569-89-6561 Mail: mail@tokokan.net		

紀北町海山地区渚泊推進協議会

～紀北町の自然と食を満喫し田舎の良さを再確認！～

- 研修・フィールドワーク
- インターンシップ
- 地域住民との交流



「手作り筏で川下り体験」

地域概要

紀北町海山地区は三重県の南部、吉野熊野国立公園内に位置し、豊かな自然と歴史文化が息づく場所として知られています。特に、熊野古道が世界遺産に2004年に登録されてその歴史と風光明媚な景観で多くの人々を魅了してきました。この地域には奇跡の清流と呼ばれている銚子川があり、その透明度は銚子川ブルーと呼ばれ、訪れる人々に感動を与えてくれます。また上流の魚飛溪には、巨岩、奇岩が点在し、秋には紅葉も観ながら散策できます。

大学に提供可能な体験・プログラム(例)

紀北町海山地区の海、山、川などのアクティビティを実際に体験し、また、同地域の郷土料理も含めて、この地域の魅力を県内外へ発信することで熊野古道伊勢路への来訪者も含めて、宿泊を伴った観光客を増やして行きたい。そして、都市と漁村(地域住民)の交流により漁村に暮らす人々を元気にしたい。

海の体験(漁業体験等):養殖マダイの餌やり、漁船クルージング、魚カゴ漁、船釣り等。
川の体験(奇跡の清流「銚子川」で遊ぶ):手作り筏で川下り、観察シノーケリング、箱メガネで川の生き物観察、魚飛溪の散策等。
山&畑の体験:熊野古道 馬越峠の散策、ジャガイモ掘り等。
歴史&文化他体験:漁師まち引本浦の散策、鯉の生節加工場見学&試食、塩づくり、干物づくり、郷土料理押し寿司等

基本情報・連絡先

一度に受入可能な人数	40名	宿泊施設	海山地区又は古里地区に点在する民宿に分宿していただきます
所在地	三重県北牟婁郡紀北町引本浦869-6	ウェブサイト	https://miyama-nagisahaku.com/
連絡先	Tel: 090-8735-8764 Mail: kumanokodo@zb.ztv.ne.jp		

奥こんぜ農泊推進協議会

～体験して、地域に触れ、文化を知り、人とつながる場所～

- 研修・フィールドワーク



「そば収穫集合写真」

地域概要

滋賀県栗東市の奥こんぜ地域は、金勝山の自然と歴史を感じられる里山エリアです。京都・大阪、名古屋から好アクセスでありながら、豊かな自然や古民家、地元住民との交流を通じた学びや体験ができるのが特徴です。企業研修や大学フィールドワークなど、多様な目的に応じた受け入れが可能で、地域資源を生かした体験型滞在により、参加者に気付きやリフレッシュの機会を提供します。

大学に提供可能な体験・プログラム(例)

奥こんぜでは、観光者としてではなく、地域の未来をともに作る「担い手」として参加するフィールドワーク型プログラムを提供しています。耕作放棄地の再生、そば栽培、竹林整備、里山トレイル整備、田んぼラグビー運営など、人の手で地域を支える体験が中心です。学びの中で、汗を流し、仲間と挑戦しながら、地域課題に向き合う実践型の学びと貢献型の体験ができます。

・耕作放棄地の現状把握→改善プラン作成→再生
・金勝山ハイキングで歴史探訪しながらコースの補修
・竹林整備をして竹を使ったワークショップ
・地域清掃をしながら地域住民と対話・交流
・地域のお寺の清掃をしながら、地域の人の交流、地域文化に触れる
・地域資源を使ったクラフト作り
・地域でとれたそばでそば打ち体験

基本情報・連絡先

一度に受入可能な人数	20～50名	宿泊施設	栗東市立自然体験学習センター森の未来館
所在地	滋賀県栗東市荒張	ウェブサイト	https://share.google/Bdi9WJmqCgqayVzm1
連絡先	Tel: 080-3819-4685 Mail: okukon.nouhaku@gmail.com		

一般社団法人南丹市美山観光まちづくり協会

～豊富な学生受入経験を持つDMO職員がコーディネート～

- 研修・フィールドワーク
- インターンシップ
- どのようなプログラムも一度ご相談ください



「地域住民インタビューの様子」

地域概要

京都美山町は40年来、美しいまちづくり条例の制定やグリーンツーリズム、エコツーリズム、DMO設立などの観光によるまちづくりを推進しています。2021年国連世界観光機関から持続可能な観光の優良事例としてベスト・ツーリズム・ビレッジに選ばれました。来訪者、住民、事業者が共に守り育てる観光地を目指し、近年では学生の受入も積極的に行っています。

大学に提供可能な体験・プログラム(例)

- <https://miyama-experience.com/product/conserves-landscape/>
- <https://miyama-experience.com/product/sustainable-tourism/>
- <https://miyama-experience.com/product/study-ashiu-gibir/>

- * 地域住民の方へのインタビュー 1~2時間 5500円(込)/人
- * かやぶきの里ガイドツアー 30~60分 20名まで1グループ8800円
- * 美山かやぶきの里冬灯廊 運営サポート

基本情報・連絡先

一度に受入可能な人数	40名	宿泊施設	大学のご希望をヒアリングの上ご提示します
所在地	京都府南丹市美山町安掛下23	ウェブサイト	https://miyamanavi.com/media/detail/miyama-sustainable-tourism.html
連絡先	Tel : 0771-75-9030 (水曜定休) Mail : info@miyama-kvoto.com		

北木島活性化プロジェクト協議会

(一般社団法人かさおか島ラボ)

～日本遺産の「石の島」で離島の課題に住民と挑戦～

- 研修・フィールドワーク
- インターンシップ
- SDGs取り組み(Greenbird)



「日本遺産「白石島」で漂流ゴミ拾い。綺麗になった海で地引網体験の後、島民と島の課題と解決策を意見交換」

地域概要

岡山県笠岡市沖に位置し、日本遺産の「石の島」で漁業体験。世界最大の食品見本市 Gulfood 2024 でグランプリを受賞した北木島の牡蠣や真鯛、海老、いか、タコなどの漁が盛ん。人口減少を逆手に取り、生活汚水のないクリーンな海域はEU HACCPのお墨付き。漂流ゴミ拾いで生態系を守りながら漁業を守る姿を学んでもらい、また若い人たちのアイデアをいただくために、大学生の受け入れを行っています。

大学に提供可能な体験・プログラム(例)

過ごし方は先生や学生さんと一緒に検討します。本年夏には地元住民と20人の学生さんが一緒になって海岸でゴミ拾いをし、漂流ゴミの深刻さを体験していただき、地元民から漁業や観光への影響を聞き取ることで、島の課題と現状を知っていただきました。また、綺麗になった海で地元漁師の指導で地引網などの漁業体験をしていただきました。

- ゴミ拾い(2時間)
- ↓
- 地引網と採れた魚の捌き方のワークショップと試食など(3時間)
- ↓
- 笠岡諸島の現状と課題について地元民からの話と意見交換(2時間)

基本情報・連絡先

一度に受入可能な人数	40名まで (相部屋が可能であれば40名までOK)	宿泊施設	原則日帰り(希望があれば、島に点在する民宿に宿泊可能。有料)
所在地	岡山県笠岡市白石島3035-2		
連絡先	Tel : 0865-61-4711 Mail : shinchan.rokumaru@outlook.com		

(一社)宇久町観光協会 宇久島グリーン・ツーリズム振興会

～これからの日本で起きうる課題に今取り組める島～

- 研修・フィールドワーク
- インターンシップ



「国内外の方と地域住民が交流できる場所です」

地域概要

五島列島最北端に位置する国境離島で、行政区分は長崎県佐世保市になる宇久町では、農山漁村体験民宿(農泊)を通じて地域の課題発見や解決につながる大学生受入を行っています。観光資源が少なく、ターゲットとしている若者へのアプローチを現在のテーマとして活動中。

大学に提供可能な体験・プログラム(例)

島での仕事・遊び・暮らしを体験してもらい、地域を理解した上で様々なテーマや課題解決に取り組んでもらいます。長崎県立大学しまなびプログラムでは、各グループの大学生が思案した地域課題解決のテーマに取り組み、特産品「宇久島かるた」や「つばきクッキー」の開発・発売、SNSによる魅力発信等を行いました。

- 一次産業(漁業や畜産)の職業体験を行い、地域の働き方(営み方)を学びます。…午前中
- ↓
- 体験プログラムや島内観光を通じて島での遊び(余暇)・過ごし方を体感します。…2~3時間
- ↓
- 農泊を通じて島の暮らしを学びます。

基本情報・連絡先

一度に受入可能な人数	80名	宿泊施設	農山漁村体験民宿(農泊)23軒 (島に分散しております)
所在地	長崎県佐世保市宇久町平2524-23	ウェブサイト	https://www.ukujima.com/
連絡先	Tel : 0959-57-3935 Mail : u9info@trad.ocn.ne.jp		

北きりしま田舎物語推進協議会

～地域の魅力に癒され、新たな視点が見つかる体験～

- 研修・フィールドワーク



「農業体験」

地域概要

宮崎県小林市・えびの市・高原町の3市町で活動しており、霧島連山の北東部に位置している自然豊かな地域です。農畜産業が盛んなため農業体験や田舎暮らし体験を提供する農泊を行っています。都市と農村の交流、心の交流、地方やふるさとの大切さ、食の大切さなどを学ぶことができます。人と人との関わりが希薄になる中、心の拠り所となる第2のふるさとにして欲しいです。田舎が持つ様々な課題や農業についてなどのテーマ学習に活用頂けます。

大学に提供可能な体験・プログラム(例)

農業大学の農業研修の受け入れを行っています。実際の現場で実情を知ることができます。その中では1日全員で集まって鶏の解体を行い、食は全て命を頂いているのだということを学んで頂きます。その他通常の農家民泊や日帰り体験も可能ですので、地方の課題解決や田舎の暮らし体験としてご利用頂くことも可能です。

農家民泊や日帰り体験を通して食の大切さや地方の魅力、課題など様々なテーマに合わせて体験することができます。農泊は、農業、観光、教育、地方創生、SDGsなど様々な要素が含まれています。なぜ地方で農泊が行われているのか、地域資源を活用して外貨を稼ぐとはどういうことなのか、など幅広いテーマに適しています。人と人との交流が希薄になった今、ふるさとの大切さを感じ第2のふるさととして心の拠り所として頂きたいです。

基本情報・連絡先

一度に受入可能な人数	30名	宿泊施設	3地域の民泊家庭に分かれて宿泊
所在地	宮崎県小林市・えびの市・高原町		
連絡先	Tel : 0984-22-3020 Mail : inaka@sound.ocn.ne.jp		